

みなみネット

屋久島と琉球 文化交流検証

地元作家ら。パネル討論

屋久島や沖縄を約100年前に踏査した英国人植物学者ウィルソンにちなんだパネルディスカッション「琉球イスカッション」が21日、屋久島と黒潮が結んだ人と文化」が21日、屋久島の屋久島環境文化センターであった。地元在住の作家古居智子さんと鎌田道隆・奈良大学名誉教授らが屋久島に残る琉球文化などを語り合った。

鎌田さんは、楠川盆踊りに「屋久島の泉で汲んだ水を琉球の船に積み、ヤマトへ運ぶ」との歌詞があることに触れ、「沖縄との交流を示すものが屋久島の集落文化にある」と指摘した。

ウィルソンについて研究している古居さんは、屋久島と沖縄の漁師が交流した逸話が沖縄県・座間味村史に残っていると紹介。「庶民の歴史を発掘すると、面白い」と述べた。



このイベントは写真展「ウィルソンが見た沖縄」の屋久島巡回展を記念し、屋久島環境文化財団が開いた。琉球新報社の米倉外昭文化部長は「古居さんがウィルソンの写真を発掘したことが屋久島と沖縄を結びつける結果になり、感慨深い」と語った。

(堀伸一郎)

琉球と屋久島の文化について語り合う(左から)古居智子さん、米倉外昭さん、鎌田道隆さん。屋久島の屋久島環境文化センター